



若き血

(慶應義塾東久留米三田会会報)

第45号

発行：慶應義塾東久留米三田会
事務局：〒203-0014 下里
tel&fax:042-478-7270
e-mail:hkmitakai2003@gmail.com
編集：東久留米三田会広報委員会

第17回総会・講演会報告

東久留米三田会の平成最後の行事として恒例の第17回総会が、平成31年4月20日(土)に成美教育文化会館で、第一部総会、第二部講演会、第三部懇親会の三部構成で行われました。

第一部総会は佐武幹事長の開会宣言と応援指導部の指揮による塾歌斉唱で始まりました。最初に大野会長より「会長時代のお礼と共に4年間は全員参加を心がけてやってきたが、女性の活躍と会員の増員は残念ながら未達となった」と挨拶されました。次に金田副会長が議長となり議事が進行し、平成30年度活動報告や決算報告、新年度の活動計画や予算案の件と役員改選の議案について全て滞りなく承認されました。今回の役員改選では、特別顧問に大野貴志夫君(S49卒)、会長に篠田知成君(S52卒)、幹事長に島崎孝君(H01卒)、副幹事長に渡部寛君(S54卒)、会計に渡邊修一君(S48卒)が選任されました。

最後にご来賓としてお招きした慶應義塾基金室次長の山崎氏より、ご挨拶と共に最近の慶應義塾に関し、ご報告して頂きました。

- ① 3月25日、2018年度大学学部で卒業式が行われ、10学部合計6,324名卒業
- ② 4月1日、2019年度入学式；大学院1,729名入学、大学学部10学部6,474名入学
- ③ 4月3日、“2018インパクトランキング”が発表され、日本では世界トップ100位以内は京都大学(48位)、東京大学(52位)、慶應義塾大学(91位)の3大学のみ。

最後に福澤先生の言葉に「世の中にて最も大切なるものは人と人との交わり付き合い」とあり今後とも慶應義塾の発展に社中一同で取り組んでいきたいと話されました。

第二部講演会は慶應義塾大学経済学部、駒形哲哉教授をお招きし、中国経済の行方～「米中貿易戦争」の先にあるもの～という演題でご講演して頂きました。最近、なにかと話題になっているテーマでもあり、会場には多数の聴衆が参加されました。

<講演会の要旨> 中国は昨年、改革開放40年を迎え、紆余曲折を経つつも中国は高度経済成長を遂げ、米国に次ぐ「世界第2の経済大国」となった。直近の数年は成長率の低下が続き、成長方式の転換を喫緊の課題としながら、建国100年までに製造業において世界の前列に立つ野心的な政策を進めている。そこに勃発したのが「米中貿易戦争」であり、今回は、改革開放以後の中国経済の発展の経過を振り返ったうえで、「米中貿易戦争」のもつ意味について考えてみたい。

<講演の要約とポイント…>

1 改革開放以後の中国経済の経過

- (1) 「無視できる国」から「影響を受ける国」、「影響を与える国」へ
- (2) 転換期迎えた中国経済一新常態 ⇒ (2014.11 習近平：高成長から中成長へ)

2 中国経済の「出口」

- (1) 情報通信技術を利用した産業・経済の発展 ⇒ 10大重点分野
- (2) 既存国際政治経済秩序への挑戦⇒「一带一路発展戦略」(習近平、2013年～)

3 米中貿易摩擦—本質はどこに？

- (1) 報復関税応酬、着地点は？ (2) 貿易収支:米国の貿易赤字の最大相手国は中国
- (3) 米中貿易の本質—技術覇権と安全保障 (4) 足並み乱れる欧米 (5) 5G覇権争い

4 中国に影響を受ける世界

[通説] 権威主義開発体制は経済発展に伴い政治民主化につながる と考えられたが

[実際] 中国中央から地方、行政・立法、企業まで、共産党組織がカバー

5 終わりに

- (1) 急速に変化する経済環境⇒日本はどうする？
- (2) 米中貿易戦争は第二次東西体制の始まりか？
- (3) 提起される問題 ⇒ 国家資本主義に勝てるのか？

6 参加者からの質問： HUAWEI 製品は何故安く作れるのか (欧米日比 max1/5)

製造に関する人件費が安い(基本；低賃金・長時間労働)、開発に金を掛けない(人を連れてくる、コピーする)、中国人の気質(まずはやってみる、どこからでも持ってくる)等が要因として考えられる。 <以上>

講演会に参加された皆様より、講演資料も事前に配布され、先生の説明もとても丁寧でわかりやすく、現在進行中の問題の深刻さも含め理解できたとの感想も多く、とても有意義な講演会になりました。

第三部懇親会の参加者は 32 名(来賓；10名、役員・会員；22名)で、ご来賓として東久留米稲門会、西東京三田会、国分寺三田会、所沢三田会、更にご講演をして頂いた駒形先生にもご出席して頂きました。篠田新会長より「ご来賓の皆様へのお礼、大野前会長へのお礼、今後とも全員参加での活動や若い会員の増員に力を入れたい。」と挨拶された後、乾杯により懇親会が始まりました。



しばらくの歓談の後、今年も当会恒例のチアリーダー2名の登場で会場も華やかとなり、応援指導部の「神宮での応援を再現しよう」との力強い宣言のもと、全員で・三色旗の下に・慶應讃歌・丘の上・若き血を肩を組み元気に歌いました。また、本年は稲門会の会長・副会長も参加されており、「紺碧の空」の合唱とエール交換も行い、神宮での応援を思い出し、明るく和やかな楽しいひと時を過ごしました。

最後は佐藤特別顧問より、駒形先生の公演のお礼と共に、親鸞さまの声「私が私であってよかったといえるあなたになれ」と、親鸞の教えを学んだ藤代聡磨の「これまでが これからを決める」のではない「これからが、これまでを決める」という言葉が紹介されました。大切なのは、「これから」の自分の生き方であり、「これから」の自分を作っていく最初の一步は、「今の自分に他ならない」との解説でお開きになりました。今回も会員相互の交流親睦を深めると共に、新年度「令和」を迎えるのに相応しい充実した総会になりました。

絹野 雄四郎 (昭和43年 工学部卒)

篠田 知成 東久留米三田会新会長 挨拶

「初春令月、気淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香」万葉集巻五

令和の時代が始まりました。春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いが込められているそうです。

新しい「令和」の時代が、穏やかで過ごしやすい時代であることを大いに期待するところであります。

さて、この度東久留米三田会会長を拝命いたしました篠田でございます。大野前会長をはじめ歴代の会長が築いてこられました伝統を継承し、更に発展して行けるよう微力ながら全力で頑張る所存ですので、どうか皆様のお力添えを賜れば幸いです。

東久留米三田会は平成15年(2003年)に発足し17年目を迎えております。その間色々な行事を企画し定着させてきました。毎年秋に開催している「コンサート」は当会の看板行事であり、出演者である慶應義塾大学の音楽サークルからは演奏の機会を作って頂いたことに感謝の気持ちを頂戴し、観客である市民の方々からは若い学生達の演奏を毎年楽しみにしているとのことのお喜びのお言葉を頂戴しております。また、4月総会時には慶應義塾大学の先生をお招きして



篠田 新会長

の「講演会」、8月には市内の小学生を対象にした「夏休み理科実験工作教室」、2月には慶應義塾大学落語研究会OBによる「銀杏寄席」など、会員および市民の皆様喜んで頂ける行事を毎年定期的に開催しております。

これらの行事を企画・運営して頂いているのは東久留米三田会の幹事の方々です。皆さんの並々ならぬご尽力には本当に頭が下がる思いです。心より感謝申し上げます。

東久留米市在住の塾員は約400名おられます。その内東久留米三田会にご入会して頂いている会員は約100名です。私達のPR不足もありますが、一人でも多くの塾員に当三田会にご入会して頂きたいと思っております。また折角ご入会して頂いているのに各種行事にご参加できない方もいらっしゃいますので、参加しやすい環境作りと更に魅力ある行事等を作っていきたいと思っております。市内在住の塾員の皆様も気兼ねなくお声をかけて頂ければ幸いです。

東久留米三田会の規約には2つの目的が記載されております。

1. 会員相互の親睦を深める
2. 地域社会に貢献する

この2つの目的と共に、我が母校「慶應義塾への貢献」を加え、3つの目的達成に向けて全力で頑張っておりますので、皆様のご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

東久留米三田会会長 篠田 知成 (昭和52年 商学部卒)

新役員紹介

渡部 寛 君 (昭和54年 経済学部卒)

この度副幹事長に指名していただきました渡部寛です。子供が自由学園に通った関係で18年前に中央町に引っ越してきました。5年前に勤務先のドイツから帰国した際に亡くなられた田島元幹事長から声をかけて頂いて、東久留米三田会に入会し幹事として活動に参加してまいりました。東久留米三田会は塾への恩返し、地域貢献、会員の交流という3つの目的を和気藹々と実践していて素晴らしいと思っています。会合のあとで塾の学生さんたちと話すのも楽しみの一つです。ダイバーシティの時代なので、できればもっと若手や女性の会員が増えて活発な交流ができればと願っていますが、あまり堅苦しく考えずに、できることから楽しみながら良いのではないのでしょうか？先輩や他の幹事の方々に頼ることが多く心苦しいのですが、自分のできる範囲で積極的に働きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

渡邊 修一 君 (昭和48年 法学部卒)

この度、会計担当に指名されました渡邊修一です。

入会后、数年経過しますが、今までは会合に参加するのみで、余り三田会に貢献していませんでしたが、会計担当の篠田様が会長となり、幹事長、副幹事長の異動に伴い、会計担当の指名を引受けました。

現役時代、銀行に勤務し、その後も独立行政法人において契約部門担当でしたので、仕事にお金は常について回りましたが、このような会の会計は、五十年近く前の塾生時代のクラブ活動の会計担当以来です。

引継ぎ書類において、篠田会長、大野前会長の緻密な会計管理にふれ、やや緊張しています。慣れるまで、しばらく皆様に不便をおかけすると思いますが、早く円滑に運用できるよう努力しますので、ご容赦願います。

新会員紹介

中川 誠治 君 (昭和55年 経済学部卒 61歳)

本年度、東久留米三田会に入会させていただきました、氷川台二丁目在住の中川誠治でございます。

塾では、故岡田泰男先生のご指導の下、アメリカ経済史を学びました。1980年3月に卒業し、全国農業協同組合連合会 (JA 全農) に入会しましたが、就職に当たり岡田先生から、“君は (アメリカとはまるで関係のない) 随分変わったところに行くんだね。”と言われたのが、いまだに忘れられません。以来、金融関係等に就職したゼミ同期生の過半が転職を重ねる中、現在に至る 40年近い期間、JA 全農及びその関連企業で、穀物や畑作農産 (加工) 品の集荷・輸入及び販売企画等に従事してきました。もっとも、50歳を過ぎてからは関連企業の監査役や取締役が大半ですが。

現在は、JA 全農とキューピーの共同出資鶏卵加工品 (液卵、粉卵) 製造会社の取締役です。会社の製品は、マヨネーズやふりかけ、惣菜、洋菓子等に使用されています。

平成の御代はほぼ、東久留米で過ごしてきましたが、農業関連の仕事で現場密着と見られがちながら、どうしても国内外の農業主業地域との取引が中心になり、居住地域社会の方々とのコミュニケーションは極めて希薄でした。

還暦を前にして、遅まきながらこのことに気付き、川崎市の専修大学大学院のソーシャル・ビジネスプログラム履修や小平市の嘉悦大学大学院での MBA 取得等を通じ、少しでもソーシャル・コミュニケーションの輪を拡げる試みをしてみました。今般還暦を過ぎたところで、縁あって東久留米三田会に仲間入りさせてもらうことになりましたので、どうか宜しくお付き合いいただくようお願いいたします。

趣味は、観劇（文楽、歌舞伎、ミュージカル、音楽コンサートの順）、読書、ゴルフ等です。
文楽は、国立劇場での公演を毎回ほぼ欠かさず観ています。

読書は、小説以外のエッセイ、学術書等を乱読しています。

ゴルフは、衰えが隠せず、執着心の希薄化が顕著ですが、新たな同伴競技者を得て、今一度頑張ってみたいと思っています。

恒例 秋のコンサート開催のお知らせ ～慶應ワグネル男声合唱コンサート～

三田会恒例の秋のコンサートのお知らせです。今年は、3回目となります慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団による力強い歌声をお聞きいただきます。初秋の青空にさわやかな男声合唱をお楽しみください。

日 時：令和元年9月23日（月：秋分の日） 午後2時 開演予定

場 所：まろにえホール（東久留米市立生涯学習センター）

東久留米市中央町 2-6-23 Tel 042-473-7811

公 演：慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団

入場料：1,000円（全席自由席）

演奏曲目（予定）：

- 見上げてごらん夜の星を / 坂本九
- 誕生 / 中島みゆき
- 他



副幹事長 平石 佳之（平成1年 医学研究科博士課程単位取得退学）

夏休み理科実験工作教室の開催予告

夏休み工作理科実験教室を昨年に引き続き下記要領で行います。

日 時：2019年8月3日（土）、10時～12時、13時～15時

場 所：東久留米市立第九小学校 視聴覚教室

対 象：小学4年生以上（保護者も参加できます）

募集人数：午前・午後共に各30名

実験と工作の内容：光の3原色（赤、緑、青）を混ぜている
いろいろな色を作る実験と工作



今回の理科実験工作教室は大きなプロジェクターを使って赤、緑、青をスクリーンに映して混ぜるとプロジェクターには無かった黄色や白色が映ります。この実験の後で赤、緑、青に発光する3種類のLEDの光をピンポン玉で混合させる装置を工作します。ピンポン玉にも黄色や白色を写すことができます。

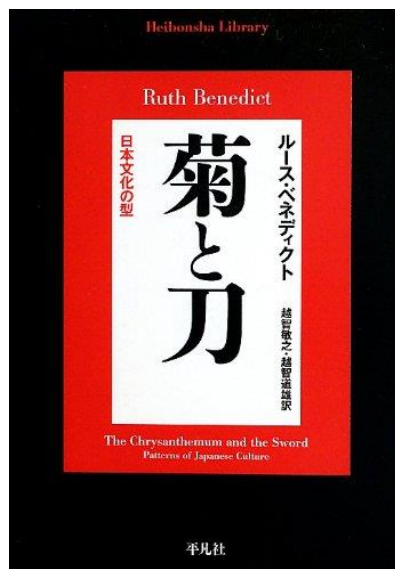
そして、帰宅後も参加した親子等でこの実験を話題にしながら興味を更に深めてもらえることを期待して、保護者同伴者の参加も出来るようにしています。

副会長 佐武 昇（昭和36年 工学部卒）

投 稿

心に残る一冊（17）

「菊と刀」 ルースベネディクト 著



今回は中学か高校生だった頃、読んだ記憶がある「菊と刀」をとりあげる。読んだ頃は、本の内容が難しかった思いが残っている。本はアメリカのルースベネディクトという女性学者が、第二次大戦前に日本文化の特有な所や日本人特有の精神構造を鋭く分析している。日本の「恥の文化」や「精神主義も歴史的考察を含めて解明している。世間から周りから仲間外れにされることへの恐怖心が日本人に積極的で自発的な行動を抑止している真の原因であるというのが著者の主張の核心にもなっている。

著者は、この本を日本に来たことがない中で書いたとされる。このためか、多くの事実誤謬も指摘されてもいる。「八百万神（やおよろず）」が「四万の神」になっていたり、切腹する浅野内匠頭が、大石内匠頭に面会したりする。それだけで信頼性をお願い失いかねないところだが、「菊と刀」はいまだに読まれている。それは、著者の直感的な把握によって日本人の国民性が見事に浮き彫りにされているからである。著者が著作に取り組んだ頃は、米国との戦争の1944年の頃であり、アメリカ軍の損を最小限に食い止めつつ日本軍を降伏に導く方法をさぐることにあった。終戦が近づいて来ると、戦後の対日占領政策の立案も新たな課題として浮上してきた。さらに天皇の処遇も大きな問題になった。

ベネディクトはそのような課題に答えるために報告書を書いた。タイトルは「日本行動パターン」で執筆期間は1945年5月から8月初めまでであった。この報告書は国務省に提出された。わずか三ヶ月余りで完成した報告書こそ「菊と刀」の原型にほかならない。「菊と刀」の随所にみられる鋭い観察が、日本人の性格から派生するさまざまな社会現象を解くカギとなった。世間から、周りから仲間外れにされることへの恐怖心が、日本人に積極的で自発的な行動を抑制している真の原因であるというのが、著者の主張の核心にもなっている。「菊と刀」の刊行から二年後、ベネディクトは環状動脈血栓症で急死した。コロンビア大学で正教授になってわずか二月後のこと。享年六一歳であった。

副会長 浅羽 芳久（昭和42年 経済学部卒）

春の東京六大学野球リーグ —慶応野球部第2位—で終了—

4月13日（土）に開幕した春の東京六大学野球リーグは、明治大学の優勝で終わり慶応は残念ながら2位で終わった。

4月の開始当初は、立教大学、法政大学を連破して一時優勝するのではないかとの期待を持たせた勢いであったが、5月18、19日の明治大学に連敗して最後の早慶戦で早稲田大学に2勝1敗で終わりはしたが、優勝することは出来なかった。

早慶戦応援は、東久留米、所沢の有志で6月2日（日）に学生応援席で校歌や応援歌を歌って応援し、2勝1敗で早稲田から勝ち点を挙げる事ができた。ここ何シーズンは所沢三田会との合同応援になっている。この春の所沢の竹下顧問、大出会長、東久留米から、佐武さん、樋川さんらと学生応援席で校歌や応援歌を歌って楽しんだ。応援した第2戦は5対2で慶応の勝利で終わり、「丘の上」を歌うことができた。

副会長 浅羽 芳久（昭和42年 経済学部卒）

同好会の活動報告

美術の会

令和元年 5月 18日（土）は渋谷の Bunkamura ザ・ミュージアムにて印象派のバレエコレクション展があり、樋川さんと川鍋さんが鑑賞しました。お客様も多く素晴らしい絵画展だったそうです。



野崎は残念ながら父の退院の日と重なってしまい参加できませんでした。5月

5日からその日まで父は誤嚥性肺炎で入院しました。参考までに高齢者に多い誤嚥性肺炎の予防法を介護の人から教わったので、私の経験も含めて記します。

① ゆっくり食べる、飲む ②むせたら何回も咳払いをして気管から出す ③大きな声で喉を鍛える（あ～、い～、う～、舌を出しながら：べ～、ダッダッダとかドッドドと声を出す。）④食事を飲み込むときに声をかけない ⑤飲み物にとろみ剤を添加する ⑥予防しても咳が続き体温が上がったら（半年前も今回も 37 度の微熱から 2～3 時間で急に 39 度近くなった）怪しいので肺のレントゲン写真を撮れば状況がわかるようです。ちなみに 98 歳の父は今は自宅に戻ってひ孫をあやしたりしています。

秋の美術展シーズンを楽しみにしています。

では、次回の予定を記します。

◎ブルーベリーパーティー

日時：令和元年 7月 28日（日）12 時頃 から

場所：野崎陽一の自宅に集合してブルーベリー摘みと BBQ パーティー

東久留米市柳窪 1-5-46 携帯電話 090-3238-2374

参加費：1,500 円（ブルーベリー 1 Kg とバーベキュー費用）

人数が把握できると設営が助かりますので、なるべくご連絡ください。もちろん当日参加も OK です。

◎美術鑑賞予定日

日時：令和元年 12月 1日（日）午後 2 時

鑑賞先未定

美術の会幹事 野崎 陽一（昭和 47 年 経済学部卒）

ゴルフの会

開催報告

第64回三田会単独ゴルフ会は5月10日（金）飯能グリーンカントリークラブで行う予定でしたが参加者が少なかったため残念ながら中止となりました。

第31回稲門会・三田会合同ゴルフ会は6月14日（金）飯能グリーンカントリークラブで行われました。当日は梅雨の合間を縫って晴れの絶好のゴルフ日和に恵まれ、稲門会11名、三田会9名の参加者で日ごろの腕を競い合いました。今回は三田会の中川さん（S55年経済卒）が初参加され新風を吹き込んで頂きました。

双方上位6名のネットで競う団体戦は三田会463.0ストローク、稲門会468.2ストロークで5.2ストロークの差で三田会の勝利となりました。これで対戦成績は15勝15敗1分けの五分となりました。

個人戦の優勝は難グリーンを制した佐武さんでした。上位成績者は以下のとおりです（敬称略）。

優勝	佐武 昇（三田会）	グロス93	ネット73.8
準優勝	上原徹也（稲門会）	グロス92	ネット74.0
三位賞	村野建彦（稲門会）	グロス98	ネット75.2

合同ゴルフ会は今回で31回目を迎えましたので競技後の表彰式・懇親会は久しぶりに東久留米に戻って行いました（会場 夜来香）。競技の成績発表、優勝スピーチ等に続いて懇親会に入り、ゴルフ談議をはじめ各人の近況紹介など多岐に亘る話題で会場は盛り上がり相互懇親を深めて頂けたようでした。



今後の開催予定

第65回三田会単独ゴルフ会 9月4日(水) 飯能グリーンカントリークラブ

第32回稲門会・三田会合同ゴルフ会 11月予定(幹事役は稲門会 日にち場所は未定)
ふるってご参加下さるようお待ちしております。

ゴルフの会 幹事 山本 好実(昭和38年 工学部卒)

近隣三田会等への参加報告

○所沢三田会創立10周年 講演会・祝賀会

5月25日は快晴の空の下、所沢三田会の第11回定例総会が開かれ、当会より特別顧問の野崎陽一が参加しました。

総会の後、第二部は塾員の若林鶴雲講談師による「若き血誕生物語」の話がありました。堀内啓三作詞作曲により歌が作られ、藤山一郎による歌唱指導で、初めて早慶戦で歌われ勝利に結びついたことを楽しい話に仕立てていました。

第三部の懇親会には、当会をはじめ東村山三田会、奥武蔵三田会の参加もあり大いに盛り上がりました。所沢三田会はとても出席率の良い会でした。

夏には例年通り東久留米へブルーベリー摘みに来たいとのことでした。歓迎したいと思えます。

特別顧問 野崎 陽一(昭和47年 経済学部卒)

会員動向

(敬称略)

入会 一 中川 誠治 (昭和55年 経済学部卒)

事務局からのお知らせ

<年会費>

「東久留米三田会」では会費の自動振替をお願いしておりますが、自動振替手続をされていない会員で、本年度の会費（5,000円）未納付の方は下記口座へ振込をお願いいたします。

会費振込先口座：りそな銀行東久留米支店：普通 3914917、または

郵便振替 口座番号 : 00160-3-648204

いずれも受取人の名称は、東久留米三田会です。

総会資料送付時にご案内しているとおり、平成22年度より5,000円となっております。

<記事募集>

「東久留米三田会」では次回の会報に載せる記事を募集しております。地元や慶應義塾にまつわる話題、簡単な自己紹介等、奮って御応募ください。

連絡先 幹事長：島崎 孝 e-mail:hkmitakai2003@gmail.com tel&fax:042-478-7270

<「くるくるチャンネル」に掲載>

「東久留米のふれあい情報サイト くるくるチャンネル」に カラー版の会報誌を投稿しました。

下記URLをクリックするか 「東久留米のふれあい情報サイト くるくるチャンネル」の検索で閲覧できます。イベント項目の一番目に最新号の「東久留米三田会会報誌」が掲載されており、そこからも閲覧できます。東久留米市のホームページの右下欄記載の「くるくるチャンネル」からサイトに入ることもできます。

<http://kuru-chan.com/0222mitakai/>